

平塚市美術館協議会 書面開催に係る御意見

① 令和4年度の事業予定について

- 例年と比べてもそんな色ない事業予定（内容）だと思います。特に年度初めの展覧会は個人的にも大変興味があるので期待しています。また、夏季開催予定の2つの展覧会についても同様に良い内容と思えますので、メディアなどに取り上げてもらえると観覧者の増加につながると思います。SNSなどによる美術館情報の拡散が進めば、夏の企画展などはより盛況が見込めると思います。
- 展覧会以外の事業については現時点では異存などございません。今後も感染状況に応じて柔軟な対応をお願いいたします。
- 予算案などの提示がなく、館が当該年度にどの展覧会に重点を置いているか、展覧会毎に対象としている年齢層などの説明も無いため、工夫や運営方針について評価しかねます。対象とする年齢層に応じて、広報戦略なども変えるべきであり、そうした点が全く見えません。
- このコロナ禍で予定を立てることが困難であることを御推察いたします。この状況で興味をそそる企画が予定されていることに感心しました。ぜひ多くの入場者が訪れることを期待しています。
- 人気のある深堀隆介の作品をはじめ、リアル（写実）を追求した作品は幅広い年齢層の興味関心を刺激するものと思われます。
- 所蔵作品を含め、平塚市を中心とする湘南地域及び神奈川県にゆかりのある近現代作家の作品を公開することで、地域理解や郷土愛につながるものと考えます。
- おもしろいと思います。楽しみです。
- 市制90周年記念として、3つの企画展、3つの特別展を予定していただき、観覧できることが楽しみです。これら展覧会の魅力発信をよろしくお願いいたします。
- <「リアルのゆくえ展」について>写真が世に出るようになり、絵画は著しい変化を遂げた。あるものを写す技術ではカメラには勝てない。描くと撮るのとの違いがわかる展示をして欲しい。カメラに撮れば終わりなことを、なぜ画家は鉛筆を握り絵筆を執るのか。
- <「けずる絵」について>山内若菜さんの言葉、「自分の理想を込めてもいいと思うようになった。そんな自分の「絵を描くことで、見る人に希望を届けたい。」、「原爆が落ちた国で、なぜ原発事故があったのかずっと疑問だった。この目で見て描き残したい。」、「コロナ禍で命こそが一番だと見直す動きがある。今だからこそ、伝わるものがあるのではないか。」、これらが伝わるような展示が望ましい。
- <「工藤麻紀子展」について>美術手帖に小山登美夫ギャラリー（東京、2016）展での記事がある。散歩中に会った花や草木、鳥や夜空といった日常生活で目にする身近なものと夢で見た世界のイメージが混然一体とした、不思議な心象風景を描く。作品は大胆かつ繊細な筆致、鮮やかな色彩の調和、複数のイメージが画面に配される構図が特徴。はかなげな雰囲気をもとながらも、画面は躍動感に満ちあふれている。絵を見て、この心象風景を心に残して美術館を去るようになるといい。

- ・<「こどもたちのセクション展」について>子どもたちの言葉や反応、保護者のコメント着眼がすばらしい。期待の持てる展示になるに違いない。
- ・<「わたしたちの絵 時代の自画像展」について>画家は単に感じたことを絵にしたのか。問題提起したのか。解決策のヒントを与えたのか。画家は嘆くだけなのか。社会のどんな役割を画家は担っているのか。「心をざわつかせ」「共感を呼ぶ」は各作品のどこなのか。市民がそれを感じ取れるような展示にしてほしい。
- ・<「所蔵品展」について>大きな作品を空間を圧倒するように展示しても、学芸員の意図は伝わらない。なぜ、こんな巨大に描かなければならなかったのか。そこが知りたい。絵は無言。鑑賞者の気持ち、知識、経験、感じ取り方で作品は変わる。それでは常に作品は受け身。画家は何を訴えたかったのか。何に突き動かされてこの作品を描いたのか。そこに学芸員の力量が発揮される。
- ・<ロビー展「富岡奈津江展」について>「動物の、生きる為に生きている姿に惹かれている」生き物の存在、温もり、生命観を表現 ホヤホヤの窯から覗くこの感じはなんとも堪らないのです！ ロビー展とはなにか。ロビーに置く意義は？ 展示室との違いは。作品に触れることが許されるから？ 子どもたちをここに呼べば、嬉々として作品に触れるだろう。『かわいい』とはしゃぎながら抱き上げるかもしれない。

②今後の美術館について

- ・ここ数年のコロナ禍の影響も感染と収束を繰り返しながら、ある程度パターンが定まりつつあります。こうした状況を踏まえ、美術館の在り方（今後）としては、従前の実体験をベースとした体験の提供と情報メディアによる情報の提供の二つの要素のバランスを考えて運用していくことになると思います。実体験は非常に大切に、昨今の状況においては尚更ですから、いかにリスクを減らしつつ、効率よくそれを実施・提供していくのか。そのためには情報の発信に対する検討が更に必要になると思います。
- ・しばらく作品購入予算がついていないようですが、寄贈と寄託だけではコレクションの内容が歪んでしまいます。定量評価（寄贈、寄託の数）だけでは、収蔵問題の（長期的に維持費が高む）遠因になります。美術品等取得口座の状況についても、可能であればお知らせください。
- ・令和3年度の「studio COOCA のパッパラパラダイス2021」がとても良かったです。美術館というと少し敷居が高いイメージがありますが、このような作品を定期的に見ることができると良いと思います。
- ・今後も新型コロナウイルス感染症の影響が心配されますが、感染症予防対策を講じながら、魅力ある運営がなされることを願っております。
- ・小学校の立場から申しますと、絵を描くことや物を作ることが好きな子どもたちにとって、平塚市美術館が「夢の場所」「憧れの場所」となることを願っています。
- ・教職員にとっても、気軽に授業等の相談ができ、協力いただける場所であり続けてほしいと願っています。

- 美術館に足を運ぶというのは、子どもころから通っていないと大人になってからは難しいのでは。4～5歳の子が抽象画の前で足を止めたのを母親がわからないからとひっぱって行ってしまった。幼稚園の先生が上手な絵（良くない絵）を選んで、良い絵（稚拙な絵）を落としてしまう。先生や母親の教育が必要では。稚拙な絵（良い絵）を描いた子がのびない。
- 市民アートギャラリーを使用する立場から意見が言えるのは私だけだと思います。美術館を作る運動をしてきた方々は市民作品を発表できる場所を強く望んで市民アートギャラリーを作りました。どんなに大切か、そのことを忘れないでください。
- 平塚という身近なところで、美術鑑賞ができる貴重な施設です。このへんの魅力発信について、前例などにとらわれることなく斬新なアイディアのもとで進められることを期待します。
- 〈それだけで見に行きたくなるもの〉蓑豊さんと草薙奈津子さんの本を読んだ。無料エリア、ワークショップ、カフェ、図書館 絵を飾るだけではない試みは、よく似ている。金沢と平塚の美術館を比べて決定的な違いはスイミングプールである。それだけを確認する為に足を運びたくなる。平塚には残念ながらそれがない。それを探し求めれば、必ず人々は美術館を訪れる。日頃、芸術に関心がない人でも。
- 〈学芸員が主役〉絵画を飾るだけでは、美術館に差はない。有名な絵を展示すれば、人々は物珍しさで集まってくる。これが本来の美術館だろうか。絵を所狭しと掲げることが美術館の使命だろうか。絵には小さな説明が添えられる。文章を読んでも学芸員の顔は浮かんでこない。学芸員がその絵をどのように解釈しているかもわからない。一枚の絵に、私はこう考えると学芸員が絵よりも広いスペースをとって解釈を展開するところにこの美術館の存在意義がある。絵はどこに飾っても同じ絵、しかし、添えられる学芸員の見方、絵にまつわるエピソード、絵の歴史と背景など調べたことを子どもでもわかるように書き添える。大きな字で。必要ならば、図や表、漫画、音声、映像を使うのも効果的。筆使い、画材、絵の具の調合、塗り重ね具合、画家がこの絵を描くに至った経緯、心境など。NHKの「日曜美術館」や「アートステージ～画家たちの美の饗宴～」、「新美の巨人たち」、「フランス人がときめいた日本の美術館」は一生懸命に解説を加える。作品や画家だけではなく、解説者が主役である。評論家は蘊蓄を傾ける。ここぞとばかり知識を披歴する。時には、画家自らが能弁に語る。背景に音楽を流し、次々に絵をただ映し続けるのではない。絵を見るのは1パーセント、残り99パーセントは耳を使っている。平塚に行けば絵がわかる。個性を持った美術館を育てることがこれからは求められる。これまで個人収集家の道楽の延長線で芸術品を展示してきた。もうそんな時代は終わりにしなければならない。何のために学芸員がいるのか。まさに学芸員の頭と心を展示するのが美術館なのである。

③美術館協議会について

- 今回の様な感染状況に応じた柔軟な実施体制は非常に有難く思います。
- 実際に展覧会、教育普及事業を担っている職員から、協議会への要望を聞いてみたいです。
- 自分の所属の代表として意見を述べられる方もいらっしゃいましたが、本来は平塚市の美術館としての発展を支える意識をもった方が良いと思いました。委員に対して、その位置づけをはっきり伝えた方が良いと思います。（他にも同様意見あり）
- 様々な立場、職種による構成であるため、大変勉強になりました。年 2 回（書面開催含め）は少ない感もありますが、多忙な日々を過ごしている身からすれば仕方ないと考えます。